

令和2年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立安方中学校

1. 昨年度の「改善プラン」の検証

(1)【成果】

2学年は校内正答率が目標値を上回った。また、各観点も目標値を上回っている。昨年課題であった「活用」も目標値を大きく上回った。3学年では「社会的事象への関心・意欲・態度」「社会的な思考・判断・表現」「資料活用の技能」が目標値を上回った。ICTの活用や課題解決学習が効果を上げている。

(2)【課題】

1学年：「活用」が目標値を大きく下回った。基礎の定着と同時に総合的に判断する力を育む必要がある。
2学年：歴史分野「古代までの日本」の領域において、全国・区の平均を下回った。以前に学習した内容を振り返り、知識の定着を図ることが課題である。

3学年：「社会的事象についての知識・理解」が目標値を下回った。解答形式の「短答」で特にその傾向がみられている。語句の定着が課題である。

2. 授業改善のポイント

※改善内容に観点【関】【思】【技】【知】を記入。

1 学年

- ・【関】 ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の興味関心を引き出す。
- ・【思】 言語活動を中核とした活動を通して生徒の思考力の伸長を図る。
- ・【技】 資料の読み取りを繰り返し行い、基礎的な技能を高めると共に、調べ学習、発表の中で様々な資料を用いてまとめ、生徒の資料活用の技能の伸長を図る。
- ・【知】 ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の知識・理解を伸長するとともに、ワークや小テストなどの学習到達度の振り返り機会を設ける。

2 学年

- ・【関】 ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の興味関心を引き出す。
- ・【思】 歴史的・地理的事象の因果関係や理由などについて、文章等でまとめる活動を通して生徒の思考力の伸長を図る。
- ・【技】 調べ学習の中で様々な資料を用いてまとめ、生徒の資料活用の技能の伸長を図る。
- ・【知】 ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の知識・理解を伸長するとともに、ワークや小テストなどの学習到達度の振り返り機会を設ける。

3 学年

- ・【関】 ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の興味関心を引き出す。また、特に公民的分野において、生徒の身近な題材を用いて授業を行うことで生活体験と結びついた学習を行う。
- ・【思】 グループ学習や調べ学習、発表など様々な活動を通して生徒の思考力の伸長を図る。単元のまとめにグループ討論なども行い、自らの言葉でまとめて表現する力を育む。
- ・【技】 グループ学習や調べ学習、発表の中で様々な資料を用いてまとめ、生徒の資料活用の技能の伸長を図る。
- ・【知】 ICTを活用し視覚的な教材を多く用いて、生徒の知識・理解を伸長するとともに、ワークや小テストなどの学習到達度の振り返り機会を設ける。